



いんおのりの流れ

物部川



物部川のマーク

物部川の河原へ、この前行ったのはいつですか。河口から土佐山田町へ向けて、堤防沿いにさかのぼると、親水公園がいくつも整備されつつあります。新しい橋もできています。四万十川が全国的に関心を呼んでいます。私たちの物部川も鮎やうなぎ、川エビなど楽しい思い出をいっぱい与えてくれた川です。ほかほかしい天気の日、物部川を歩きましょう。子供たちと一緒に物部川での思い出を作ってみてはどうでしょうか。



物部川は剣山系の白髪山に源を発し、長さ約七十。の川です。古くは香我美川（鏡川）と呼ばれ、香美郡の郡名とも関係があるようです。また、物部氏との関連を指摘する説かともあります。田村遺跡の弥生人の水田跡からもわかるように、人々は昔から生活用水、灌漑用水として物部川の恩恵を受けてきました。しかし、川面は兩岸の平地に比べ、三、七割も低く、水の利用は至難の業で、野中兼山が田田せきを建設

（一六六七年）するまで、市中・南部は荒れ地と畑地が広がり荒涼としていたようです。山田せきによって生まれた上井・中井・舟入川の水路は、豊かな穀倉地帯を作り、現在の南国市を形成したと言えます。一方、物部川の治水は難しく、山本五心著の「物部川の解部」（昭和六年出版）によれば、度重なる洪水によって兩岸の水田がたびたび流出したと記録されています。悠久の歴史をその水面に映

して流れる物部川は、現在、親水公園として新たな脚光を浴びようとしています。約りはもとより、護岸の道路は市民のジョギングやサイクリングの格好のコースとして愛用され、河川敷のスポーツ施設などとともに、市民のいこいの場になりつつあります。魚鱗の踊る清流と、ステップアップ物部に向けての市民活動と、行政の施策が期待されます。

変わりゆく水田風景

物部川沿いの岩村地区では、ほ場整備（水田を拡大して管理や生産性をよくすること）が着手されています。かなり大きな土木工事となっている。完成後は大きく様変わりした水田風景が見られるでしょう。一枚の水田が百に四方で、どの田へも車が横づけできるように計画されています。作業効率は飛躍的に向上します。この地域での成功は、モデルとなり、市全域に好結果をもたらすに違いないと期待できるのではないのでしょうか。



計画の説明を受けた老夫婦の、喜びの表情。四か所に合計五反歩の水田を所有し、長

男が会社勤めの兼業農家です。が、この老夫婦が年を取るにつれ、長男夫婦の農作業への負担が大きくなり、すべての水田での自家経営が難しくなってきたと考え始めたところへ、ほ場整備の話、長男夫婦に異存はなく、近所の信頼できる世話人の助言もあって、快くこの話に同意した。完成までの収穫減や、歩どまりによる面積の縮減、また、わずらわしさなどの苦労もあるが大規模田となり将来得られるであろう利益、作業の効率化、長男夫婦が将来展開する作業の効率は、考えただけでもうれしくなるような成果をおさめるでしょう。他人に経営をまかせる場合、いつでも誰でも受け合ってくれ、また、不幸にして事故さなければならなくなった場合は、整備前の二、三倍の高値で取り引きができる可能性があるなど、その土地の価値は飛躍的に上昇することとなります。まったく良いことづくめのほ場整備ではないか……。みんなが笑顔で完成のときを向かえるのを祈ります。

かわいそうな鮎の話

物部川は近年、鮎の遡上期

や産卵期に水不足となることが多くなっているそうです。例えば、産卵され、石についた



た卵が干上がってしまうのもまれではないのです。南国市で見ていると信じられないのですが、物部川は日本で一番急峻な川の一つだそうです。近年、上流の山が荒れて保水能力が落ちてきていることもあって雨が降ってもパッと水が出て

すぐ減水してしまうそうです。年間七十万尾の鮎を放流しているそうですが、水が少ないうちに、生活排水も入ってくるので汚染はかなり進んでおり、水の汚れは鮎の遡上を妨げているのです。いくつものせきやダム、農業用水に必要なこれらのものも、鮎にとってはありがたいものなのではないでしょうか。



上流には四万十川よりすばらしい清流が流れているところもある物部川、どこから手をつけていいのかわからないくらい大問題の環境問題。かわいそうなのは鮎だけじゃない。かわいそうな人間たち。こうすれば一発で解決という策なんて誰もわからないのです。とにかく目の前のできることから何かする。魚のこと、水のこと、川のことを知ると

いうことで、河かが見つかるといってもいいかもしれません。物部川のいろいろなことについて詳しい人間がたくさん増えてきたとき、物部川も魚たちも私たちも豊かな表情をしていることではないでしょうか。

このコーナーは、広報委員が取材していますので、見かけたらご協力お願いします。

